



【荒原貝塚】

豊岡市内では、縄文時代の貝塚が3箇所と弥生時代の貝塚が1箇所見つかっています。

そのなかの香住荒原貝塚は、豊岡市香住の通称「ブリ山」の北側にできた谷地形に位置しています。

1999年の発掘調査では、貝殻の堆積層が幅約10m、厚さは最大で1m70cmにわたって確認されました。貝殻層は大きく自然貝層（下層）と貝塚層（上層）に分かれています。

貝塚層からは、縄文時代の中期から晩期にかけての土器が出土しています。貝類ではマガキやヤマトシジミ、ウネナシトマヤ、イシマキガイの出土量が多く、汽水域であったことが想像できます。香住荒原貝塚がある場所は、現在は水田地帯となっていますが、約 3～4,000年前は湾のような形状をなしており、縄文人たちの生活を支えるのに重要な漁場であったと考えられます。



香住荒原貝塚の調査風景



香住荒原貝塚出土の貝類

アサリ・オオノガイ・ハマグリ・カキ・サルボウ・ヤマトシジミほか（順不同）

